## 専任教員の教育・研究業績

| 所属 | 職名 | 氏名 | 大学院における研究指導担当資格の有無 | |
|---|---|---|---|---|
| 教育学部 | 教授 | 今堀　美樹 | | 無 |

### Ⅰ　教育活動

| 教育実践上の主な業績 | 年月日（期間） | 概　　要 |
|---|---|---|
| 1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） | | |
| 論文（査読付）「「出会い」を中心とした学習過程についての考察―グループ・スーパービジョンへの取り組みを通して」に，実習の事後学習についてまとめ公表した。<br>（『大阪体育大学健康福祉学部研究紀要』，第3号，pp. 13-26） | 平成18年3月 | 実習の事後学習として取り組んだ，インシデントをもとにしたグループ・スーパービジョンについてまとめた。それぞれ異なる実習に取り組んだ学生達が，相互に学びを分かち合う過程を，まずグループ記録により明らかにした。そして，実習場での自己の課題を事例によって発表し合い，相互に意見を交わし合うことで，新たな気付きが得られる。こうした学生自身の学習過程を，教育方法の実践例を示すことにより考察した。 |
| 論文（査読付）「「出会いを中心とした学習過程についての考察―相互作用を促進するグループワーク・プログラムへの取り組みを通して―」に，他者を支援するための「専門的自己」形成を目指した学習過程についてまとめ公表した。<br>（『大阪体育大学健康福祉学部研究紀要』，第4号，pp.159-174） | 平成19年3月 | グループワークによる体験学習を通して“自己理解と他者理解を深める”ことが，他者を支援する「専門的自己」の形成には必要である。普段は同じ学部に所属する学生であるメンバー同士が，いかに相互の関わりを深めていけるか。そうした関わりを促進するグループワーク・プログラムのありかたや，グループの“場”の設定について，教育方法の実践例を示すことにより考察した。 |
| 研究ノート（査読付）「「「出会い」を中心とした援助者養成についての考察－グループの“場”を経験することの意味に着目して－」にグループワークの“場”を経験することの意味についてまとめ公表した。<br>（キリスト教社会福祉学研究第40号，日本キリスト教社会福祉学会，pp.81-89） | 平成20年1月 | 他者を支援する専門職にふさわしい「専門的自己」を形成していく過程において，グループの“場”を経験することにはどのような意味があるか。とりもなおさずそれは，グループメンバーが相互にとって“かけがえのない存在”として認識されていく過程を体験しあうこと。他者を受容することが自己を受容することにつながること。こうしたことを，体験的に学習していくことにこそ，その意味はある。こうした学習過程の意味について，教育方法の実践例を示すことにより考察した。 |
| 論文（査読付）「出会いを中心とした学習過程についての考察－グループ過程への参加に対する“抵抗感”に配慮した場の設定をめぐって－」に，グループワークに参加することへの“抵抗感”に配慮した“場の設定”についてまとめ公表した。<br>（大阪体育大学健康福祉学部研究紀要，第7巻，pp.39-52） | 平成22年3月 | 他者を支援する際に基盤となるのは「専門的自己」である。それは，さまざまな出会いを通して自己理解と他者理解を深め，支援者としての価値や倫理を体験的に習得していくことによって形成される。こうした学習を開始するには，まず学生の“抵抗感”に配慮した場の設定が必要となる。こうした“場の設定”について，具体的な授業の実践例を示すことにより考察した。 |
| 2　作成した教科書、教材、参考書 | | |
| 『よくわかる社会福祉』（やわらかアカデミズム・わかるシリーズ）ミネルヴァ書房，pp.124-127 | 平成9年3月 | 第7章社会福祉の諸相（子ども家庭福祉）の「2.子どもの権利と児童に関する権利条約」，「3. 子ども家庭福祉の法律と実施体制」を執筆。　児童の権利に関する条約の歴史的背景と理念，またその意義と特徴をまとめ，親が養育責任を果たせるような支援・援助の必要性などの課題を指摘した。そして，戦後の要保護児童対策を中心とした児童福祉から，子どもと家庭を一体として援助する子ども家庭福祉へという，児童福祉の理念の変遷と照合させ法律や実施体制がいかに変遷したかをまとめた。 |
| 『社会福祉援助技術演習』（社会福祉選書⑩）<br>建帛社，pp.108-112 | 平成15年2月 | 『社会福祉援助技術演習』第3部実践へのスキル演習，1. 問題の分析と把握のためのスキル，(3)観察のスキルについて執筆。<br>サリバンの「関与しながらの観察」や「非言語的コミュニケーション」をキーワードに，クライエントを観察するポイントについて具体的な説明をするとともに，演習作業に展開させうる課題を提示した。 |
| 『ソーシャルワーカーとケアマネジャーののための相談支援の方法』久美株式会社，pp.115-134 | 平成20年4月 | 「第8章児童養護施設での発達支援」を執筆。児童指導員とファミリー・ソーシャルワーカーによる，虐待（ネグレクト）によって入所した3歳女児とその家族への，チーム・アプローチについて示した。児童養護施設では児童の自立を最終的な目標に，乳幼児から青年期に至るまでの「育ち」を豊かなものにするための活動が行われる。自立の前提として，発達期における十分な依存体験により他者への基本的信頼感を育むこと，が重要とされる。それは，豊かな生活経験や他者との関係を経験することが子どもの発達の原動力になる，ということだ。それゆえ自立支援計画の作成では，子どもをこれまで育んできた家族関係や育った環境などとの連続性の尊重が必要となる。そして，家族の養育力や関係性を回復させ，可能な限り子どもの家庭復帰が目指されなければならない。つまり，実践では保護者との協働が不可欠となる。こうした実践の具体的展開例を，子どもと関わる児童指導員と母親への支援に携わるファミリー･ソーシャルワーカーを中心としたチーム・アプローチとして示した。 |
| 3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等 | | |
| | | |
| 4　その他教育活動上特記すべき事項 | | |
| 一般社団法人こころの臨床主催<br>「公認心理師実力錬成のための講習会」<br>「公認心理師現任者講習会」 | 令和元年5月1日<br>令和2年1月13日 | 「福祉分野1（制度）中級編」「福祉分野2（課題・事例）中級編」　「福祉分野＜1＞主な制度」「福祉分野＜2＞課題と事例検討」 |

### Ⅱ　研究活動

著書（単著）

| 書名 | 著者 | 総頁数 | 発行所 | 発行地 | 発行年月 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | |

著書（共著・分担執筆）

| 題目／書名 | 著者／編者 | 初（始）頁～終頁 | 発行所 | 発行地 | 発行年月 |
|---|---|---|---|---|---|
| 『ソーシャルワークの技能』 | 編著：岡本民夫，平塚良子，著者：日根野健，藤野好美，湯浅典人，今堀美樹，空閑浩人，木原活信，武田加代子，三品桂子，小田川華子，牧洋子，久保美紀 | pp. 100-114 | ミネルヴァ書房 | 京都 | 平成16年8月 |
| 『ソーシャルワーカーとケアマネジャーののための相談支援の方法』 | 編著：狭間香代子，著者：梓川一，今堀美樹，セツコ，直島正樹，野村裕美，橋本好一，土田恭仁子，山下裕史，松原景子 | pp. 115-134 | 久美株式会社 | 京都 | 平成20年4月 |
| 『ソーシャルワーク入門－相談援助の基盤と専門職－』 | 編著：空閑浩人，著者：衣笠一茂，浅野貴博，今堀美樹，田中希世子，松倉真理子，野村裕美，佐藤順子，中島友和，千品友理，佐々木祐介，西村こころ，久門誠，前味佳，牧哲也，池本賢一，大槻剛，小島端木，豊田明子，中村郁奈子 | pp. 151-170 | ミネルヴァ書房 | 京都 | 平成21年2月 |
| 『日本キリスト教社会福祉の歴史』 | 監修：阿部志郎，岡本栄一，編：日本キリスト教社会福祉学会，著者：岡山孝太郎，木原活信，春見静子，田代菊雄，坂本道子，杉山博昭，室田保夫，細井勇，遠藤興一，永岡正巳，遠藤久江，西川淑子，岸川洋治，市川一宏，高山直樹，谷川修，山本誠，マーサ・メンセンディーク，今堀美樹，新野三四子 | pp. 395-401<br>pp. 401-409<br>pp. 423-424<br>pp. 424-425<br>pp. 429-452<br>pp. 458-478 | ミネルヴァ書房 | 京都 | 平成26年6月 |
| 『ソーシャルワークの理論と実践－その循環的発展を目指して－』 | 著者：今堀美樹，岩間伸之，木原活信，空閑浩人，久保美紀，藤野好美，藤原正子，松倉真理子，三品桂子，南本宜子，横山登志子，横山穣，監修：岡本民夫，編集：平塚良子，小山隆，加藤博史 | pp. 101-113 | 中央法規出版 | 東京 | 平成28年5月 |
| 『ソーシャルワーク論』（しっかり学べる社会福祉２） | 編著者：木村容子，小原眞知子，著者：志村健一，内田宏明，北島英治，澁谷昌史，大谷京子，市瀬晶子，石川時子，木戸宜子，畑山由佳子，高瀬幸子，今堀美樹，芝野松次郎 | pp. 223-235 | ミネルヴァ書房 | 京都 | 平成31年4月 |
| 『ソーシャルワークの哲学的基盤-理論・思想・価値・倫理-』 | 著者：フレデリック・G・リーマ、共訳者：秋山智久、所道彦、高山直樹、高山由美子、岡田進一、岡田まり、今堀美樹、狭間香代子、空閑浩人、久保美紀 | pp. 223-235（第４章「認識論」第１節「論争の性質」第２節「哲学的文脈」第３節「経験主義の出現」第４節「ソーシャルワークと実証主義」） | 明石書店 | 東京 | 令和2年7月 |

原著論文（審査機関を有する学術誌に掲載の論文に限る。学会抄録等は含めない。）

| 題名 | 著者 | 誌名 | 巻 | 初（始）頁～終頁 | 発行年月 |
|---|---|---|---|---|---|
| 「理解しあおうとする関係―菅円吉が説く“隣人愛”とキリスト教社会福祉が志向する人間関係―」 | 今堀美樹 | 『大阪体育大学健康福祉学部研究紀要』 | 第10巻 | pp. 31～46 | 平成25年3月 |
| 「大阪体育大学における社会福祉士養成の課題」 | 辰巳佳寿恵、今堀美樹、大谷悟 | 『大阪体育大学健康福祉学部研究紀要』 | 第10巻 | pp. 73～84 | 平成25年3月 |
| 「“愛による援助モデル”再考―ロジャーズのカウンセリング理論における実存主義への傾斜―」 | 今堀美樹 | 『キリスト教社会福祉学研究』 | 第46巻 | pp. 36～50 | 平成26年1月 |
| 「「社会的基督教」から「バルト神学」へ―　関係に導かれた菅円吉の神学思想―」 | 今堀美樹 | 『大阪体育大学健康福祉学部研究紀要』 | 第13巻 | pp. 31～51 | 平成27年1月 |
| 「教育相談におけるソーシャルワーク理論の活用に関する考察<br>－教員の連携によりいじめの初期段階に効果的支援ができた事例の検討を通して―」 | 今堀美樹 | 『大阪体育大学教育学研究』 | 第3巻 | pp. 47-66 | 平成31年3月 |
| 「竹内愛二が主張した「実践の科学化」についての検証－戦時下になされた非行少年の事例研究に焦点をあてて―」 | 今堀美樹 | 『大阪体育大学教育学研究』 | 第4巻 | pp. 37～57 | 令和2年1月 |
| 「戦時下における竹内ケースワーク論の価値基盤を問う ： 中島重が主張した「新人格主義」への共鳴に焦点をあてて」 | 今堀美樹 | 『キリスト教社会問題研究』（同志社大学人文科学研究所） | 第71号 | pp. 37-65 | 令和4年12月 |
| 「竹内ケースワーク論にみる「科学」と「価値」の検証－「社会的基督教」との関わりを問う視角から－」 | 今堀美樹 | 同志社大学大学院社会学研究科社会福祉学専攻博士論文 | | pp. 1-147 | 令和5年9月 |

総説

| 題名 | 著者 | 誌名 | 巻 | 初（始）頁～終頁 | 発行年月 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | |

その他　（「症例報告」、「実践報告」、「研究ノート」等区分を記入）

| 区分 | 題名 | 著者 | | 誌名 | 巻 | 初（始）頁～終頁 | 発行年月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 研究ﾉｰﾄ | 「キリスト教社会福祉教育とは何か―キリスト教教育の原点に立ち返って―」 | 単 | 今堀美樹 | 『大阪体育大学健康福祉学部研究紀要』 | 第9巻 | pp. 57～71 | 平成24年3月 |
| 研究ﾉｰﾄ | 「竹内愛二のケースワーク論再考―「社会的基督教」とのかかわりから見出す新たな視角―」 | 単 | 今堀美樹 | 『キリスト教社会問題研究』（同志社大学人文科学研究所） | 第64号 | pp. 81～113 | 平成27年1月 |
| 研究ﾉｰﾄ | 「『社会的基督教』誌にみる「東亜協同体」論の検証―竹内愛二の戦時下における思想探求をめぐって―」 | 単 | 今堀美樹 | 『キリスト教社会問題研究』（同志社大学人文科学研究所） | 第65号 | pp. 79～121 | 平成28年12月 |
| 実践報告 | [いじめトラウマへの対処をめぐる学生相談事例の検討 -ロジャーズの実存主義的心理療法とエリクソンの発達理論の視点を通して-」 | 単 | 今堀美樹 | 『家庭教育研究』 | 第24号 | pp. 49-59 | 平成31年3月 |
| 実践報告 | 「保育現場で出会う『人間関係』への視点の検討 - 10年間の実践記録から保育者としての成長を問う - 」 | 単 | 今堀美樹 | 『大阪体育大学教育学研究』 | 第6巻 | pp. 125-143 | 令和4年2月 |
| 研究ﾉｰﾄ | 「保育内容指導法『人間関係』の授業内容に関する考察－『支援者』としての基本姿勢の形成に焦点をあてて－」 | 単 | 今堀美樹 | 『大阪体育大学教育学研究』 | 第6巻 | pp. 105-123 | 令和4年2月 |

学会発表（「国際学会」、「国内学会（一般演題、シンポジウム、課題研究、講演等」、「研究会」等区分を記入）

| 区分 | 年月 | 学会名 | 演題名 | 場所 | 発表者名 |
|---|---|---|---|---|---|
| 国内(一般演題) | 平成25年6月 | 日本キリスト教社会福祉学会第54回大会 | 「理解し合おうとする関係―菅円吉が説く“隣人愛”とキリスト教社会福祉が志向する人間関係―」 | ノートルダム清心女子大学 | 今堀美樹 |
| 国内(一般演題) | 平成26年6月 | 日本キリスト教社会福祉学会第55回大会 | 「社会的基督教と菅円吉」 | 宮城学院女子大学 | 今堀美樹 |
| 国内(一般演題) | 平成27年6月 | 日本キリスト教社会福祉学会第56回大会 | 「竹内愛二と社会的基督教」 | 金城学院大学 | 今堀美樹 |
| 国内(一般演題) | 平成28年6月 | 日本キリスト教社会福祉学会第57回大会 | 「『社会的基督教』誌にみる「東亜協同体論」－竹内愛二のケースワーク論における「戦時下抵抗の不在」をめぐって－」 | 関西学院大学 | 今堀美樹 |
| 国内(一般演題) | 平成28年9月 | 日本社会福祉学会第64回秋季大会 | 「「社会的基督教」と「東亜協同体論」－竹内愛二によるケースワーク論の思想的基盤を問う－」 | 仏教大学 | 今堀美樹 |
| 国内(一般演題) | 平成29年5月 | 日本学生相談学会第35回大会 | 「「自分らしく生きる」ことへの支援に関する一考察」 | 中部大学 | 今堀美樹 |
| 国内(一般演題) | 平成29年9月 | 日本人間性心理学会第36回大会 | 「竹内愛二の実存主義的アプローチとロジャーズ理論」 | 東海学園大学 | 今堀美樹 |
| 国内(一般演題) | 平成30年8月 | 日本家庭教育学会第33回大会 | 「いじめトラウマへの対処をめぐる学生相談事例の検討－ロジャーズの実存主義的心理療法とエリクソンの発達理論の視点を通して－」 | 貞静学園短期大学 | 今堀美樹 |

科学研究費等の取得状況

科学研究費／その他の助成金／外部資金

| 区分 | 種類 | 題目 | 代表・分担の別 | 期間 | 助成額（期間内の総額） |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | |

特許

| 特許名称 | 発明者／出願人 | 出願日／出願番号 | 公開番号 | 取得した場合⇒ | 公告・特許番号 | 国 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | |

## Ⅲ　加入学会および社会における活動

| 期　　間 | 内　　容 |
|---|---|
| 加入学会 | |
| 平成8年12月～現在に至る | 同志社大学社会福祉学会 |
| 平成9年4月～現在に至る | 日本ソーシャルワーク学会 |
| 平成9年5月～現在に至る | 日本社会福祉学会 |
| 平成11年6月～現在に至る | 日本キリスト教社会福祉学会（平成17年4月～平成24年3月まで養成教育委員会委員） |
| 平成28年4月～現在に至る | 日本学生相談学会 |

| | |
|---|---|
| 平成29年4月～現在に至る | 日本人間性心理学会 |
| 平成30年4月～現在に至る | 日本家庭教育学会 |
| 社会的活動 | |
| 平成19年4月～平成25年8月 | 泉佐野市次世代育成支援対策地域協議会 |
| 平成21年11月 | 泉佐野市立公立保育所の民間移管に伴う保育所運営者選考委員会 |
| 平成25年2月3日 | 障害ある子どもたちの未来のために わ∞ねっと（泉佐野市・熊取町・田尻町自立支援協議会） |
| 平成25年9月～現在に至る | 泉佐野市子ども・子育て会議 |

**Ⅳ　管理活動**

| 期　　間 | 内　　容 |
|---|---|
| 委員会活動 | |
| | |
| 特別プロジェクト活動 | |
| | |

## Ⅴ　クラブ活動の指導業績

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| １．指導クラブ名 | 部 | ２．役職 | | ３．部員数 | 人 |

| | | |
|---|---|---|
| ４．現場指導の頻度 | 選択 | ① ほぼ毎日　② 週３日　③ 週１日　④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導　⑤ 全く関与していない |

| | | | |
|---|---|---|---|
| ５．合宿指導 | 年間合宿回数：　回 | 延べ日数：　日 | |

| | | |
|---|---|---|
| ６．クラブの競技力向上への取り組み | 選択 | ①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない |
| ７．クラブの教育及び部員の学習への取り組み | 選択 | ①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない |
| ８．部員の就職指導への取り組み | 選択 | ①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない |

| ９．年間の引率公式大会名 | 大　会　名 | 期　　間 | 場　　所 |
|---|---|---|---|
| | | | |

１０．クラブ戦績　（全日本選手権８位以上、関西選手権４位以上、関西１部リーグ３位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）

| 開　催　期　間 | 大　会　名 | 成　　績 | 場　　所 |
|---|---|---|---|
| | | | |

## Ⅵ　賞罰（職務に関する賞罰）

| 年　　月 | 受賞等機関名 | 内　　容 | 備　　考 |
|---|---|---|---|
| | | | |